

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 7年 2月28日

事業所名 HAPPY WORKS住吉校

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		敷きマットでけがの防止	
	2 職員の配置数は適切である	2	3		送迎の際に、児童を分散してなるべく負担がかかりすぎないように送迎組を行う
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		5		現在、歩行が難しい児童は利用していないが、利用となればその都度配慮、改修を行っていく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		LINEWORKSの活用	時間設定などを行い、他の業務との折り合いをつけていく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		利用後の送迎や面談などでニーズの把握を行っている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	4		第三者評価は行っていないが、クリスマス発表会や街市の出店に相談員や学校の先生を招き、児童・運営の様子を見てもらっている。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		定期的な研修に加え、その都度必要と考えられる研修を柔軟に取り入れている。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		契約時に事業所独自のフェイスシートを記入してもらっている。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5		月に一度会議を行い、活動を決め、児童の様子を見て柔軟に対応している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		行事やイベントに合わせて活動を取り入れている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5		各利用形態・利用人数に合わせてその都度最適と思われる課題・活動を設定している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5		一日の中で、本人がしたいことを決める時間と活動として集団で取り組む時間を作りまより張りのある支援を行っている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		送迎や活動時の役割分担などを確認し、支援に臨んでいる。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1	終礼やLINEWORKSと活用し、職員の共有を図っている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	2	支援記録を記入し日々の改善に努めている。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5		計画更新時にモニタリングを行い、計画の内容に加えて、保護者に確認することなどを調整している。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5		5領域を踏まえ、内容が被らないようにしている。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		管理者が代表して出向しているが、事前に意見を徴収して一人の意見とならないようにしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5		お迎え時の情報交換・必要であれば学校や相談員からもらった情報を関係機関に連絡を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		5	医療的ケアが必要な児童を受け入れてない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		5		利用契約前に担当者会議を行っており、相談員・保護者から就学前の様子を伺っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		5		学校卒業による契約終了をした児童は、まだ出ていないが契約が終了になって他施設に移る場合は担当者会議に出席し、情報の共有を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	1	街市などでの出店、イベントの参加などを通して交流を行っている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		4		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		送迎時の伝達、面談・担当者会議を通して共通理解を測っている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	2		ペアレント・トレーニングとして保護者に対して支援は行っていないが、保護者が必要な時に、事業所に相談できる関係づくりを行っている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		見学や契約・担当者会議の際にその都度説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		保護者の気持ちを受容しながら支援を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5		保護者同士、家庭同士の関わりに対する支援取れていないが、イベントなどを通して、関わる機会を作って行きたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5		苦情・容観んに対して真摯に受け止め、サービスの範囲で支援を行っている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		5	Instagramなどを使って日々の活動の様子をお知らせしている。	
	35	個人情報に十分注意している	5		写真の取り扱いについてアンケートを取り、保護者・本人の要望に応えている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	2	文章での伝達、電話や口頭での伝達などその都度使い分けている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4	イベントなどに学校の先生や相談員を招いて交流を行っている。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	2	法人内で担当者がマニュアルを製作し、事業所に合わせて調整を行っている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		月に一度避難訓練を児童と行い、意識を高めていく。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		年に一度、法人全体で研修を行い、意識の統一を図っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	2	契約の際に保護者に説明を行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1		アレルギーのある家庭に対して、その都度確認し、食品を提供している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		5		職員間での共有をおこなえていなかったため、共有を行っていく。